

## ゼミで出会った素敵な仲間たち

子ども発達学科学校教育専修1年

川井空鈴(かわい くり) 静岡県・静岡城北高校出身  
入学して間もなく、みんなが不安と期待を抱きながら山口ゼミはスタートしました。

まだお互いを知らず緊張しているなか、先生が第一目のゼミで行ったことはお茶会パーティーでした。初めは会話が少なかつたものの、方言の話題や登校時間についてなど様々な話題で盛り上がり、少しずつ打ち解けるようになりました。それをきっかけに、毎年春に行われるゼミ対抗の新入生セミナーでは、総合優勝はできなかったものの総合3位になることができました。ゼミメンバーが団結できた証だったと思います。

山口ゼミのメンバー交流企画は続きます。次に先生が計画したのは地域学習として内海に行くことでした。この内海交流がゼミメンバーの距離を一気に近づけてくれました。みんなで計画をし、ビーチバレーやビーチフラッグ、自由時間には本気で砂遊びをして時間を忘れて楽しむことができました。また、地域の方のあたたかさ・やさしさに触れ合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。新入生セミナーと内海交流を通して、ゼミの雰囲気はさらに明るく活気のあるものとなりました。

さらに、山口ゼミは遊ぶときと学習するときのメリハリがしっかりとしています。ゼミにはほとんど全員が出席しゼミ課題をこなして

います。また、学習グループをつくりお互いが助け合い、ゼミごとに多くのことを吸収することができます。このグループ活動はメンバー同士が仲良くなければ成立しません。山口先生のゼミ交流企画のおかげだと思います。

ゼミ課題として、「私が大学で学びたいこと その初心」について原稿を書き冊子を作りました。冊子にすることで、自分が何を目標として大学に入学したのか、再確認できたいい学習だったと思います。6月からは「大学で学びたいこと」を深める文献学習とレポート作成に取り組んでいます。

ゼミ活動を通して、自分の将来と真剣に向き合い、今の自分に何が大切なのか考えて行動するようになりました。また、ゼミ長を経験して多くのことを学びましたが、周りで支えてくれる人の存在感の大きさは特に大切であることを知りました。ゼミで出会った仲間を大切に、仲間と共に協力しあえる関係づくりとゼミ長経験を、これからの大学生活に活かしたいと思っています。



## サークル紹介(男子ハンドボール)

子ども発達学科学校教育専修4年

竹内泰晴(たけうち やすはる) 愛知県・半田東高校出身  
ハンドボール部(男子)の部員数は約40人です。そのうち、半数は初心者です。初心者でも心配はいりません。大学から始めた人も公式戦に出場し、活躍しています。「初心者が活躍できるようになれるってことは練習が厳しいのでは?」と思うかもしれませんが、そんなことはありません。練習は週一回の3時間です。初心者は、初めは全体練習の横で基本練習をします。この練習の一つとしてあげられるのは、ハンドボールの醍醐味「ジャンプシュート」です。こうした基本ができるようになれば、いよいよ全体練習に参加です。ハンドボール経験者は、いきなり全体練習に参加することもあります。つまり、学年に関係なく練習に参加できるということです。公式戦については、春と秋に開催される東海学生リーグに出場しています。一昨年から徐々に勝てるようになり、現在は3部に所属しています。2部に昇格するため、週一回の練習ですが頑張っています。ハンドボール部の1年の流れとしては、まず4月から春季リーグ(公式戦)があります。春季リーグが終わると新入生歓迎会兼お疲れ会です。その後は、9月から秋季リーグ(公式戦)があります。その後にもお疲れ会があり、4年生を追い出す会(笑)もあります。「新入生歓迎会が遅くない?」と思うかもしれませんが、その頃にはすでに練習で何度も会っている友達、先輩との参加ですので、打ち解けていてとても楽しめます。ハンドボール部は日ごろから先輩と後輩の壁がなく、気軽に話せる関係性で、仲がよいです。週一回ぐらいいつかり運動したい人、初心者、経験者、誰でも歓迎します。マネージャーも募集中です。気軽に来てください。お待ちしております。



## サークル紹介(女子ハンドボール)

心理臨床学科心理臨床専修3年

板谷秋果(いたや しゅうか) 愛知県・桃陵高校出身  
ハンドボール部は、男子と女子で同じ時間に大学内の体育館で活動しています。練習メニュー等の活動計画は自分たちで考えています。週一という少ない練習時間ではありますが、その分集中して練習が出来ます。来年度からは練習時間を増やすことも考えているところです。また、東海三県の大学が集まる東海学生ハンドボールの春季・秋季リーグに出場しています。部活内では、先輩・後輩というくりは厳しくなく、年齢関係なく楽しめて仲がよいです。そして、美浜キャンパスの学生だけでなく、半田キャンパス、東海キャンパスの学生も所属し、個性豊かな仲間たちと賑やかに活動しています。日本福祉大学ハンドボール部の魅力をより多くの方々に知ってもらいたいと思い、ハンドボール部のツイッターで活動風景等をアップしています。ぜひご覧ください。

日本福祉大学ハンドボール部男女兼用Twitter: @nfu\_handball



新入生セミナーの様子

## この号の主な内容

- 2017年度新入生セミナー
- 教育実習体験記 幼稚園実習 1
- 保育実習体験記 施設実習
- 教育実習体験記 中学校実習 2
- わたしたちの先生を紹介します
- 工藤昌孝先生
- わたしたちの授業を紹介します
- 臨床面接法演習 3
- ゼミで出会った素敵な仲間たち
- サークル紹介 4
- 男子・女子ハンドボール

● ● ● **We** ♥ **こたつ** ● ● ● ☀

— 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター —

第18号 2017年11月1日発行

## 2017年度新入生セミナー

心理臨床学科心理臨床専修2年

岩谷優花(いわたに ゆうか) 三重県・朝明高校出身  
子ども発達学部では新入生同士の仲を深めてもらうため、入学して早々の4月半ばに新入生セミナーを行っています。今年の新入生セミナーでは、仲間と協力し合えるチーム戦で行うドッチビーとジェスチャーゲームの2種目をゼミ対抗で行いました。新入生セミナーを終えて、1年生が笑顔で楽しんできたことが良かったように思います。新入生セミナー後の1年生の表情は、始まる前と比べて、柔らかく、ゼミ内での繋がりができたように感じられました。1年生の中には、「ドッチビーの後のジェスチャーゲームでは、ゼミの友人と協力して一層仲が深まった」という声も聞かれ、運営側としても、とても嬉しかったです。

また、新入生セミナー当日までの実行委員会の活動では、何度も集まって話し合いました。どうしたら新入生に楽しんでもらえるか、意見を出し合い、試行錯誤を重ねました。初めは実行委員の間で意見の食い違いもありましたが、「新入生に楽しんでもら

う」という1つの目標に向かって協力することができました。そのような話し合いを重ねたことにより、新入生セミナー当日は、1年生に笑顔で楽しんでもらうことができました。

すべてが終わって振り返ると、実行委員同士も協力し、それぞれの担当の仕事を全うすることができたと思います。私自身、委員長をやらせて頂くことになり、新入生に満足してもらえるのか、大勢の委員をまとめることができるのか、という重い責任感を覚え、当初は不安も大きかったです。しかし、いざやってみると周りの委員の協力も得られ、安心して思い切り、自分の役目を全うすることができました。私が委員長として楽しんで新入生セミナーの仕事させてもらったのは、他の委員が率先して作業を担ってくれ、支えてくれたからです。その意味で私は、新入生セミナーと一緒に作ってくれた委員の皆、運営委員の先生方にとっても感謝をしています。来年は今年以上に、新1年生も、企画運営を担う実行委員同士も楽しみ、仲を深めてほしいと思います。

## 教育実習体験記 幼稚園実習

子ども発達学科保育専修4年

後藤将大(ごとう しょうだい) 愛知県・東郷高校出身  
今回の幼稚園実習では、慣れない場所に緊張しつつも、大学で勉強したことや今までの実習経験など、これまで自分がつけてきた力を試す場所になりました。子どもたちと触れ合う中での出来事から、貴重な経験をさせていただきました。はじめは、本当になにもわからない自分に直面し、そこでようやく準備不足だったことに気づきました。しかし、園での生活はとても楽しく充実しており、あっという間の4週間でした。実習が始まる前は不安しかなく、乗り越えられる自信もありませんでした。でも、実習が終わりに近づくにつれて終わってしまうことがとても悲しく、実習生としてではなく、一人の保育者としてこの園に残っていたいなど、強く思いました。この4週間の経験がなければ、社会に出て保育者として働くとき、経験値が全くと言っていい程足りず、大変なことになっていたと思います。桃山幼稚園で実習させてい

ただき、多くのことを学び(まだまだ経験は浅いですが)、社会で働く保育者に少しは近づけたのではないかと思います。この幼稚園実習は私にとって、最高の経験になりました。





## 保育実習体験記 施設実習

子ども発達学科保育専修3年

神山英義(かみやま ひでよし) 愛知県・南陽高校出身

私は児童養護施設に実習に行かせていただきました。自分自身、児童養護施設出身ということもあり、他の施設での生活、また職員の方々の支援内容について興味、関心を抱きました。実習先の施設は中舎制で、私の施設は小舎制でしたので、その部分も大きく異なっていました。

実習ではとくに、家庭的養護にも重点を置いて観察しました。一番驚かされたのは、子どもが毎日職員の方と一緒に朝食を作っていたことでした。朝の六時ごろには全員で食事ができるようになっていました。このことの意義を職員の方は、「施設の最終的な目標である自立に向けての支援の一つ」とおっしゃっていました。体が手順を覚え、自立した後でも食には困らないようにするための支援なのではないか、と感じました。職員の方々は、子どもたちが過ごしやすい環境や、仕事がしやすい仕組み、またどのようにすれば改善できるのかについて日々考えていらっしゃいました。

施設のケアで大切なことは、退所した後のアフターケアではないかとも思います。私自身、退所して大学に行ってから、手続きや生活のことで困ってしまうことが多くありました。そういった時に気軽に話ができる職員の方や、アットホームな雰囲気迎え入れてくれる場所があると心から安心できます。今回の実習を通して、施設に対しもっと深いところまで知りたい、子どもたちを職員として支えていきたいという気持ちが増しました。

子ども発達学科保育専修3年

亀井亜美(かめい あみ) 愛知県・日本福祉大学付属高校出身

私が実習をさせていただいた施設は、小規模グループケアの

ユニット制で、ユニットごとに玄関や台所、個人部屋などがあるところがとても新鮮でした。実習に行くまで、「関わり」とは直接コミュニケーションをとることであると思っていました。しかし、職員の方から「関わりには直接的なもの間接的のものがある。子どもたちが学校に行っている間に環境を整えることも関わりだし、子どもたちの様子を観察して子ども同士の関係を見ることも関わりです。直接話すことも大切な関わりだが、それだけではなく、たくさんの関わりがある。」という話を伺い、それ以降視野がとてと広がりました。子どもたちにはそれぞれ個性があり、その日の気分によっても違います。気持ちに寄り添い、一人ひとりに合った声かけや支援をすることの大切さを学びました。

私は施設の職員になりたいと思っていますが、今回の実習では、職員の方の役割についても学びました。例えば、施設に来る子どもの中には、空腹を親に伝えると「じゃあ(コンビニなどで)取ってくれば」と言われてきた、という子もいます。また暴言や暴力の中で育ってきた場合、それが普通だと思い、周りの人にもそう接してしまうこともあります。そうしたときに、間違っていることを「違う」と教え、心の中にある棘を丁寧に抜いていくことも大切であるということ学ぶことができ、職員の方の役割について改めて考えさせられました。



ればなりません。最初、私は、教科書の太字になっている重要語句をすべて押さえなければいけないと思っていましたが、50分しかない授業の中で、授業に不慣れな私がすべてを押さえることは不可能です。焦りがつり、知識が点と点でしかつながらず、教科書を説明するだけの授業になってしまっていました。歴史は、国内の情勢、資料の読み取り、周りの国の情勢、地理的な位置関係など、抑えるべきことがたくさんあります。教科書を読んで何を子どもに考えさせたいのか、何を捉えさせたいのか、どんな力を身につけさせたいのか、まずはしっかりと自分の中で軸をつくるのが重要です。そのためには、情報や資料を選択していくことが必要であることを学びました。

先生方の授業と自分の授業があまりにも違いすぎて落ち込み、「こんな自分が教壇に立っていいのか」と葛藤する毎日でしたが、巡回訪問で、担当の今井先生から「子どもたちに育ててもらっていると思いなさい」とのアドバイスをいただき、この実習でできなかったこと、悔しかったことに目を向け、それを忘れずに今後活かすことが大切だと、心から思うことができました。そして、背伸びせずに、今の私、等身大の私で子どもたちや授業に精一杯向き合っていこうと思うことができました。

中学校は、たくさんの人間ドラマであふれています。子どもたちと指導教諭の先生とのあたたかい交流に触れることができました。学級の子どもたち同士にも様々な関係があり、私自身も時間をかけながら、子どもたちと心でつながることができたと思います。実習は、自分の課題を見つけることで人としても強くなれます。いつもあたたかく見守ってくださった指導教諭の先生や子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。

## わたしたちの先生を紹介します

心理臨床学科心理臨床専修4年

河合梨絵香(かわい りえか) 静岡県・クラーク記念国際高校出身

### 工藤昌孝先生

工藤先生は、大学院で授業をされていることが多く、わたしたち学部生にとってはなかなかお会いできない先生です。しかし、その不思議な魅力から、「工藤先生のような雰囲気の心理士になりたいね」と話題にのぼることのある、ひそかに人気な先生でもあります。

工藤先生は特に分析心理学(ユング心理学)に関心をもって取り組んでおられるため、臨床心理学の講義では折に触れて分析心理学ならではの視点や考え方を紹介していただきます。分析心理学は、宗教や神話、昔話、童話などにでてる普遍的なモチーフを取り入れて心の現象を扱うことなどが特徴なのですが、工藤先生はもともと心理学を勉強される前に、そういった領域について取り組まれていたため、講義ではさまざまな領域の融合を、その語りからのぞき見ることができてとても面白いです。また、夢分析や箱庭療法、描画やアクティブ・イマジネーションなど、イマジネーションにかかわる技法を臨床場面で実際に扱っておられるので、講義ではそういったイマジネーションにかかわる技法を体験してみたり、学生の質問から夢の内容について先生が連想を紡いだりと、私たちの体験や声を取り入れながら講義を作り上げてくださるような気がします。なかでも、イマジネーションのなかで五感をはたらかせてみるアクティブ・イマジネーションのプチ体験は、ほかではできないような貴重なもので

した。

わたしは二年生のときに初めて工藤先生の講義で分析心理学に出会い、その面白さに衝撃を受けて、将来の自分の臨床にぜひ生かしたいなど思える学びをたくさんさせていただきました。わたしはもともと神話や夢が大好きだったので、自分が関心をもっていたものが心理学と結びつき、生き生きと感じられる体験は、とても感動的で、興味深いものでした。なので、そういった関心のある方にはぜひ、工藤先生ののんびりとした関西弁の語り口のなかで、心理学と神話や宗教が重なる深みに触れてみることをおすすめしたいです。



## わたしたちの授業科目を紹介します

心理臨床学科心理臨床専修4年

原田終(はらだ ひいらぎ) 滋賀県・近江兄弟社高校出身

### 臨床面接法演習

『臨床面接法演習』という何やら堅苦しい名前に見えますが、やっていることは心理臨床の集大成です。演習というのはなるべく休まないように出席しないと、あつという間にわからなくなります。そして、この演習は4年生からしか受けることが出来ません。4年生は卒論、就職活動、はたまた大学院受験と意外と多忙ですが、そんな中でも「これをやらなくては、心理臨床学科に入学した意味がない！」と自分は考えたため受講を決めました。カウンセリング技法の実践や、今まで学んだことの総まとめ

といった大変なことが多いですが、それまでやってきたことのおさらいだと思えばとても歯ごたえのある時間です。

特徴としては、まず少人数クラス制であることが挙げられます。今まで4年間を共に歩んできた仲間なので、最初から和気あいあいと演習に取り組みました。そして少人数なので、担当の先生と積極的にかかわることが出来ます。色々疑問に思っていたことを直接質問できる時間でもあります。心理臨床を実践してきた先生がこれまで失敗した経験や難しいと感じられたこと、また臨床心理学を学ぶきっかけといったことを聞くことができ、とても興味深かったです。授業は2クラス並行して行いますが、2クラス合同で行う回もあります。2人の先生と2クラスの学生がコラボレーションして授業を進行する面白さもたくさんあります。同じ内容の授業でも先生によってどのように展開されるのか、授業後にそれぞれの教室の板書を見比べてクラスメイトや先生方と語り合うのも楽しみの一つです。

さて、肝心の演習内容ですが、簡単に言いますと模擬カウンセリングを実際にやってみる事が主体です。自分がカウンセラー役、そしてクライアント役(カウンセリングを受ける人)の両方を体験し、傾聴の姿勢やカウンセリングのテクニックなどを実践していきます。意識してそれらをやっていくのですが、頭では分かっているもどきにはなかなか応答できないもので、とても難しく感じています。「臨床心理士になるには経験がいる」というのを痛感します。

話を聴いてもらえるということ、話を聴いてくれる人がいるということはとても大事なことだと思っています。相手の話を聴く体験、また自分の話を聴いてもらうという体験を通し、聴いてもらうことの嬉しさを一番学ぶことができました。

## 教育実習体験記 中学校実習

子ども発達学科学校教育専修4年

有賀みのり(ありがみのり) 愛知県・江南高校出身

中学校で教育実習を2週間させていただきました。あつという間の2週間でした。小学校の実習よりもハードで、午後は部活があり、その後、実習日誌を書き、指導教諭の先生と打ち合わせをし、明日の授業準備を終えて学校を出るのは、ほとんど21時過ぎでした。この時間でも多数の先生方が学校におられ、しかも先生方は朝練があるので、私が学校に着いた7時ぐらいにはほとんど出勤されていました。他にも先生方は、委員会や行事の打ち合わせ、家庭訪問、生徒指導など本当に多くの仕事をこなしており、そんな先生方の姿を間近で見ていると、教師は生半可な気持ちではできない職業だと痛感させられました。

最も大変だったことは、授業準備(教材研究)です。私は、中学校1年生の歴史の授業を担当しました。事前にある程度、教材研究をして授業の流れのイメージをして実習に臨みましたが、子どもたちの実態が自分の想像したものと違っており、授業の構成や切り口を変えなければなりませんでした。

また、中学校では、教科書見開き1ページをその日の授業で終えな

